

2026年度 一般入試前期日程試験問題 (2月6日)

国語

注意事項

- 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 解答用紙には、解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
 - 受験番号欄
受験番号(英字及び数字)を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。
正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
 - 氏名欄
氏名を記入しなさい。
 - 解答科目欄
解答する科目を1つ選び、科目の下の○にマークしなさい。マークされていない場合は複数の科目にマークされている場合は、0点となります。
- 解答は、解答用紙の解答欄に1つマークしなさい。例えば、

5

と表示のある問いに対して①と解答する場合は、次の(例)のように解答番号5の解答欄の⑤にマークしなさい。
(例)

解答番号	解 答 欄									
5	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
- 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

国語

(解答番号 1 42)

問題文の中の「*」の記号は、原文にあったその直後の文が省略されていることを示しています。解答にあたって考慮する必要はありません。

【甲】の文章を読んで、あとの問いに答えよ。なお、出題の都合により、一部省略・改変したところがある。「」内は出題者による注記である。

【甲】
【乙】
ダーウィンの「進化論」が与えた衝撃

動物保護意識と並んで、一九二〇世紀の動物園に影響を与えたのが、チャールズ・ダーウィン(一八〇九―一八八二)の『種の起源』で提唱された「進化論」である。彼は、ひとも動物も、もとは同じ生きものから変異してきた存在であるとして、「神の似姿としての人間」という考えかたを否定した人物である。そして、ひとを含むすべての生きものがつねに変異しつづけていることを証明するために、「生存競争」や「自然淘汰」(自然選択)といった、新しい概念を提唱した。

いっぽうで、ダーウィンは「誤解されることの多い人物である。たとえば、彼は大英帝国の拡張期に育った人物なので、「競争」や「弱肉強食」といった原理を自然界にあてはめただけでなく、人種差別や植民地支配を正当化しといわれることも珍しくない。よりによって、イギリスのxジ器製造で有名な、ウェッジウッド社の創業者ジョサイア・ウェッジウッド(一七三〇―一七九五)を祖父にもつほどの裕福な人物であったため、この解釈はもっともらしいものに見えるだろう。

だが、「種の起源」をじつさに読んでみれば、そのような意見には何のコンaキョもないことがわかるだろう。ダーウィンの、動植物の変異についての研究は、驚くほど**あ**真摯なものである。まず、動植物を飼育して、観察・実験することを欠かさない貝の移住方法を知るために、水槽にカモの足をつけて、そこに稚貝がいあがっているのを確認したりしている。それにくわえて、変異の法則、雑種、地質学、化石、生きものの地理的分布、胚の発達にいたるまで、あらゆる研究の成果を視野に入れながら論じている。少なくとも、ヴィクトリア朝時代の競争原理を自然界にもちこむような、前提Aの議論などしていないことは明らかである。

ダーウィンはじつさいのところ何を主張したかったのか、また彼の説が、どのように人びとに受け入れられたのかを、簡単に

見ておいたほうがいいだろう。ここでは、「生存闘争」、「自然淘汰」、「種の起源」一統して解説しておく。
「生存闘争」は、動物が生きていくために、食うか食われるかの熾烈な戦いを繰り返していること、みをあらわす言葉ではない。動物は、類似した種との争いで優位に立つために、別の動物と手を組むこともある。蜜を手に入れたハチに花を運んでもう花は、その一例である。

ある地域における、生きものの関係は、トホウもなく複雑で、食べたり、食べられたりといった関係だけでなく、協力関係や、間接的な関係も存在している。こういったことを理解したうえで、ダーウィンは無数の生きもののあいだに見られる、生き残りをかけた駆け引きを、「生存闘争」と呼ぶのである（後はこの言葉を使うとき、あくまで比喩にすぎない、と断っている）。

「生存闘争」という概念は、ダーウィンの説のなかでどのような意味をもつのだろうか。まず、動物は、放っておけばすまじい勢いで繁殖し、あたりを埋めつくしてしまうはずである。ところが、そうはなっていない。それは、すべての生きものが、生き残りをかけてあらゆる場所に入りこみ、ホシヨク者になったり、他の種と共生関係になったりして、お互いにけん制しあっているからである。

さらに、「生存闘争」が繰り返される過程で、ある種が別の種よりも、生き残るうえで有利な特徴を残すことも考えられる。こうした特徴を蓄積していけば、いずれその種は、別の姿に「変異」していく可能性がある。気候や地形だけでなく、他の生きものとの相互関係をとらえて、動物は変異するのだと、ウ彼はいいたかつたのである（この意味で、彼の論は非、論というよりは、変異論であった）。

ダーウィンの説において、おなじく重要な考え方が、「自然淘汰」である。これは、「自然」が、ある動物の生き残りに有利となる特徴を選び、保存していくというものだ。

彼はこのアイデアを、人間がおこなう品種改良にヒントを得た。すなわち、人間が古来、荷役馬、競走馬、角の短いウシ、さまざまなかたらのイヌ、大きな実をつける植物などを生みだしてきたことに注目したのである。

人間が、原種からさまざまなかたちの動物をつくることのできるは、なぜか。B、動物には、もともと個体差

がある。大きさ、角の長さ、足の長さ、果実の大きさといったものである。そのなかから、人間は、自分たちにとって都合のよい特徴をそなえた個体を選び、かけあわせる。C、その特徴は子孫に保存される。そのいっぽうで、役に立たない特徴をもつ個体は排除していく。そして世代を重ねると、動物の姿は大きく変わり、D、アルドッグやスパニエルのような、同じイヌとは思えないような生きものが誕生する。これを「人為淘汰」（人為選択）という。ダーウィンは、ハトを飼育して、選択によってどのように変異が生じるのかを確認している。

ダーウィンは、これと類似した現象が、野生の環境においても生じると考えた。ただし、ここで主役となるのは、人間ではなく、「自然」である。ここでいう「自然」とは、筆者の理解するかぎり、地形、気候、生物同士の関係など、生きものの生存に影響をおよぼす、すべての要素の総合体である。しかもこの「自然」は、人間が支配するべき何かというよりは、人間を含むすべての生きものを、みずからの法則のもとに置いてしまう「何か」である。

では、E「自然淘汰」はどのようなしくみで起こるのか。たとえば、オオカミには知恵、足の速さなど、もともと個体差がある。しかし、オオカミの生きている地域で、足の速い獲物しかいない状況が長く続いたとする。すると、足の速いオオカミが生き残り、その特徴が遺伝されていくことになる。結果として、その地域にいるオオカミのグループは、他のグループに比べて足が速くなる。もちろん、これ以外の特徴も、環境の変化に応じて、生き残りに有利なものだけが「選択」され、蓄積されていくだろう。その過程では、はじめは個体差にすぎなかった特徴が、グループ全体にいきわたり、やがて変種（ある種と基本的におなじだが、やや異なる形質をもったグループ）となり、さらには別の「種」となっていく。もっとも、それにはトホウもない年月が必要なのだ。

ダーウィンは、つぎのようにいう。

単なる個体差を好きな方向に蓄積するだけで大きな成果を生み出すことが、iにできるのだから、iiにもできないうちが、iiiは、dホウダイな時間を自由に使えるのだ。……

- 4 -

6 (2.6 J)

- 3 -

5 (2.6 J)

IV は、体内のあらゆる器官、体質のあらゆる微妙な違い、生きるための仕組み全体に作用を及ぼすことができる。V は自分たちの利益になるものだけを選択する。それに対して、VI は、自分が目をかける生物の利益のためだけに選抜する。……自然淘汰は、世界のいたるところで、一日も一時も欠かずに、ごくごくわずかなものであっても、変異を精査していると言っている。悪い変異は破壊し、よい変異はすべて保存し蓄積していく。個々の生物を他の生物との関係や物理的生活条件に照らして改良するべく、機会さえ与えられればあらゆる時と場所で静かに少しずつその仕事を進めている。

（渡辺隆弘、傍点筆者）

ダーウィンは、わたしたちの想像を超えた時間をかけて、わずかなつわりゆく動物という、新しいイメージである。かつてリンネは、動物や鉱石を、「綱、目、属、種」に分類することを「タイプ」した。ダーウィンは、リンネの分類法を否定しない。しかし彼は、生きものを分類するにあたって、「種と変種」、「変種と個体差」の境界があいまいで、学者もばしばこれに悩まされていることを指摘する。だが、O「このような現象も、個体差から変種へ、変種から種へ」という変異のプロセスを認めれば、説明がつけられるのである。

さらにダーウィンは、一本の木から数多くの枝が生えていくように、生きものもまた、ひとつの大きな祖先から枝分かれして発展し、あるものは途中で途絶え（絶滅）、またあるものはさらに小さな枝の祖先となっていくと考えた。すると、過去には表の項目と項目のあいだに位置するよう、中間種がいたことも想定できる。

これが、「種の起源」についての、彼の説である。

- 5 -

7 (2.6 J)

問一 二重傍線部a-eのカタカナを漢字になおす。ごらん。もつとも適当なものを次の中からそれぞれ一つ選べ。

a	コンギ	0	去	0	巨	0	掘	0	虚	0	距
b	トホウ	0	途	0	度	0	徒	0	渡	0	都
c	ホシヨク	0	保	0	捕	0	帆	0	補	0	穂
d	ボウダイ	0	冒	0	影	0	偵	0	貌	0	暴
e	テイアン	0	訂	0	提	0	偵	0	呈	0	締

問二 二重傍線部x「ジ」、y「フ」を漢字になおすと、その部首として適当なものを次の中からそれぞれ一つ選べ。

①	いとへん		
②	さんずい		
③	こめへん		
④	りっしんへん		
⑤	こざとへん		
⑥	いしへん	x 6	y 7

- 6 -

8 (2.6 J)

問二 波線部あいうの意味としてもっとも適当なものを、次の中からそれぞれ一つ選べ。

あ 真拳 ① 慌てず慎重に行動する様子 ② ひたむきで、独りよがりな様子

③ 親しい仲間内で楽しむ様子 ④ 一生懸命、物事に取り組み様子

⑤ 真実を隠して振る舞う様子

い けん制 ① 相手にらみをきかせて行動を抑制すること

② 相手に意図を伝えて気持ちを集約させること

③ 相手の注意をひきつけて印象を操作すること

④ 相手に反省を促して同じ失敗を防止すること

⑤ 相手の立場や意見を尊重して納得させること

う 照ら(十) ① よく調べて明らかにする ② 特定の条件に合わせて組み換える

③ 何かを基準として判断する ④ 互いに付き合わせて差異を調べる

⑤ 目標に向かって突き進む

問四 傍線部ア「生存闘争」についての説明として本文の内容に合致するものを、次の中から一つ選べ。

① 暴力や破壊を伴う現象を指すが、「進化論」との関連性はさほど強くない概念である

② 自然界において、例外的にしか起こらない現象に初めて焦点を当てた概念である

③ ヴィクトリア朝時代の競争原理を持ち込んで、自然界を理解しようとした概念である

④ 生きもの同士の直接的な争いだけでなく、協力関係や間接的な関係までを射程に入れた概念である

⑤ 科学よりもむしろ文学的な感性に基づいて命名された概念である

問五 傍線部イ「誤解される」とあるが、本文に示された誤解の内容としてもっとも適当なものを、次の中から一つ選べ。

① 「進化論」を提唱すること、人間が神に近い存在であるという考え方を否定した

② 自然界にあてはめられた競争原理を人間社会にもあてはめて、人種差別や植民地支配を正当化した

③ ひとを含むすべての生きものは、つねに変異しつづけていることを証明した

④ 「進化論」において、ひとと動物もとは同じ生きものから変異してきた存在であると主張した

⑤ 裕福な実家のサポートのお陰で、『種の起源』を書きあげたことに成功した

問六 空欄 A に入る語句としてもっとも適当なものを、次の中から一つ選べ。

① ばかり ② 以前 ③ ありき ④ しらす ⑤ 如何 ⑥ 条件

問七 傍線部ウ「彼はいたかった」とあるが、何をいたかったというのか。その説明としてもっとも適当なものを次の中から一つ選べ。

① 類似した種との争いが、動植物の変異を引き起こすこと

② 生きものは、放っておけばますますいい勢いで繁殖し、あたりを埋めつくすこと

③ 「生存闘争」という言葉は、あくまで比喩にすぎないということ

④ 生きものは気候や地形だけでなく、他の生きものとの相互関係を通じて変異していくこと

⑤ すべての動植物はあらゆる場所に入り込み、競争などはせずに変異していくこと

問八 空欄 B に入る語としてもっとも適当なものを、次の中からそれぞれ一つ選べ。ただし、同じものを二度用いることはできない。

① しかし ② すると ③ たとえば ④ ところが ⑤ まず

問九 傍線部エ「自然淘汰」のプロセスと結果の説明としてもっとも適当なものを、次の中から一つ選べ。

① ある生物のグループ内で、環境に適応しようと努力した個体の特徴が子孫に受け継がれ、蓄積される過程で変種が生まれて、やがて別の種へと変化を遂げていく

② 厳しい自然が、生き残りに有利な特徴を持たない個体を直接的に変化させることで、グループ全体の形質が均一化し、新たな変種が生まれる

③ もともと個体差にすぎない特徴のうち、特定の環境下で生存に有利な特徴を持つ個体が結果的に多く生き残り、その特徴が世代を超えて受け継がれ、種の変化につながる

④ 「自然」がある特定の種を理想的な姿へと導くべく明確な意図を持って作用し、トホウもない年月をかけて新たな種を創り出す

⑤ 足の速い獲物がいる地域では、すべてのオオカミの足が速くなるように環境がグループ全体で作用し、個体差をなくすことで種全体の生存率を高める

問十 空欄 i に入る「人間」「自然」のいずれかが入る。これらのうち「人間」が入る箇所をすべて挙げたとき、もっとも適当なものを次の中から一つ選べ。

① ii vi v ② ii i i vi ③ ii i i ii v ④ ii vi v ⑤ ii i i ii v ⑥ ii i i ii v ⑦ ii vi v ⑧ ii i i ii v ⑨ ii i i ii v ⑩ ii i i ii v ⑪ ii i i ii v ⑫ ii i i ii v ⑬ ii i i ii v ⑭ ii i i ii v ⑮ ii i i ii v ⑯ ii i i ii v ⑰ ii i i ii v ⑱ ii i i ii v ⑲ ii i i ii v ⑳ ii i i ii v

問十一 傍線部オ「このような現象が指し示すものは何か。もっとも適当なものを次の中から一つ選べ。」

① 動植物が長い時間をかけて、少しずつ変わりゆくこと

② 「種と変種」「変種と個体差」の境界がいまいなこと

③ リンネの「綱、目、属、種」の分類が受け入れられたこと

④ リンネの分類にダーウィンが悩まされていたこと

⑤ 自然淘汰が、あらゆる時と場所で静かに少しずつ進行すること

問十二

【甲】の内容に合致するものを次の中から二つ選べ。なお、解答の順は問わない。

- ① ダーウィンは、ハトの飼育を通じて「生存闘争」の仕組みを発見した
- ② ダーウィンは、生きものは一つの祖先から枝分かれして発展し、決して途絶えることはないと考えた
- ③ ダーウィンは、「人為淘汰」からヒントを得て、似た現象が自然環境の中でも起こると考えた
- ④ ダーウィンは、貝の生態を知るために水槽へカモノハシの足をつけて稚貝がいかに育つ様子を観察した
- ⑤ ダーウィンは、他の生きものとは異なる「神の似姿」としての人間という考えかたを否定した
- ⑥ ダーウィンは、当時の植民地支配や人種差別を否定する立場から、「進化論」を提唱した
- ⑦ ダーウィンは「変種」や「種」は人間の分類の都合にすぎず、明確な区別は存在しないと断言した

21
22

13(2.6J)

— 11 —

【乙】

ダーウィンの説は、さまざまな意味で革命的、いや破壊的であった。ダーウィンはまず、神が個々の種をつくったのであり、しかもそれらは不変であるとする思想を幕場に送った。もちろん、動物が変異するという可能性については、ゲーテらによっても指摘されていた。フランスの博物学者ジャン・バティスト・ラマルク(一七四四―一八二九)にいたっては、環境が生きているものの欲求を刺激し、それにともなっていく一部が変化し、そしてそれが遺伝されていくのだと述べている。

しかしダーウィンはさらに一歩進んで、動物の変異において、神の意志などかかわっていないとはいえないとはめかした。動物の変異は、神によって定められたプログラムにしたがって生じているのではない。自然選択をおして偶然に生じるものなのだ。ダーウィンの説の背後に見え隠れしているのは、無神論であり、また万物の根源は物質にあるという考えかた、唯物論である。ここが、一九世紀の人びとが、なかなか受け入れることができないポイントであった(テイルド・トール)。

ダーウィンの説が革命的であったもうひとつの理由に、ひとと動物の境目を、とうとう完全にとばすに及んだことがある。もともと、ダーウィンは「種の起源」のなかでは、人間の由来についてはほとんど論じていない。しかし読者たちは、人間もまた、自然淘汰をおして、何らかの動物から「ハ」セリしてきた生きものにすぎないことを理解した。

さらに、人びとは問いかけた。すべての種が別の生きものからハセリしてきたのなら、人間の祖先とはいかなる動物なのか。また、ひとにもっとも近い生きものは何なのか。答えは明らかである。サル、いや正確には、チンパンジー、オランウータン、ゴリラのような、類人猿がそれであるにちがいない。

大人気の類人猿

そこで、がぜん重要性を帯びてきたのが、動物園や巡回メナジエリー(町中や見世物市などで動物を見世物にする娯楽施設)で飼育されている、サルや類人猿である。人びとは動物園に足を運んで、ダーウィンの説が正しいかどうか、みずから目で確かめようとした。科学史家オリーヴァー・ホッホアーデルがいうように、動物園は「進化論のメカニズム」となったのである。

14(2.6J)

— 12 —

もともと、大衆にとってダーウィンの説はかならずしも明快ではなかった。より単純化した、あるいは誤解された考えかたが幅をきかせるようになった。それは、「ヒトはサルから進化した」というものである(正確には、両者はお互に祖先から枝分かれして進化した)。動物園を訪れる人びとが求めたのも、この単純なモデルであった。

それでは、人びとがサルや類人猿を眺めたとき、示した反応とは何だろうか。それは「笑い」であった。サルのおどけた、それでいて人間そっくりなしくさは笑いを引き起こした。

人間じみたサルは、当時の「お風刺画」のテーマでもあった。そこでは、人間の嗜好をしたサルや、サルの嗜好をしたダーウィンの描かれたのである。しかし、こうした笑いの背後にあるのは、とまどいであった。サルが人間の祖先である(あるいは親戚である)かもしれないことは、人びとに「E」とした不安を与えた。人びとがサルを見て笑ったのは、「おびやかされた境界線をはっきりさせる」ホッホアーデルのため、そして自分たちのふるまいは、サルのそれより進んでいることを確認することで、サルとおなじ状態に「退化」してしまわないようにするためであった。

その意味で、ダーウィンの説もたらしたものは、「変身」にたいする恐怖であった。ダーウィンのによれば、長い年月をかけて動物からひとへ進化したのだ。ならば、ひとから動物の次元へ「退化」してようことも、ありうるのではないだろうか？

そして「進化論」が受け入れられるにつれて、サルは「境界性」――ひとと動物のあいだに位置する――を獲得した。「境界性」は、人間に不安を与える要素である。古くから、得体のしれないものをイメージとして描くとき、ひとの特徴と動物の特徴を結びつける法が使われてきた。角やき爪をもったヨーロッパの悪魔や、日本の鬼などはその「E」キーだろう。ひとつのカテゴリにおさまらない存在は、ひとを不安にするとともに、惹きつける。サルもまた「境界性」を獲得して「妖怪」になった。そして、人びとは彼らに不安と魅力を感じたのだ。

ちなみに、ひととサルの境界線がはっきりしないとなると、欧米人たちは、できるだけサルとの距離をとろうとした。つまり、白人こそがもっとも「退化」した人種であるのになし、そのほかの「野蛮人」はサルに近いとみなして、「F」「妖怪化」してしましたのである。

G 説を唱えた者に、ダーウィンの説の影響を受けたエレンスト・ハッケル(一八三四―一九一

F 「妖怪

— 13 —

15(2.6J)

16(2.6J)

— 14 —

たがいる。彼は、「ゲルマン民族は類人猿(人間の形態からもっとも遠くまで進んだグループであり、文明の点で他のいかなる民族をも凌いでいる」一語、正確なヨーロッパ人と「野蛮人」の違いは、野蛮人と人間に似た類人猿の違いよりはるかに大きいと広言して「かばはからなかった」(マックス・ムルキウス)。

それは「H」「進化論」の普及にともなう、サルのなかでも類人猿にたいする人気が高まってきた。類人猿のなかでは、チンパンジーは「一六四〇年」においてすでに、生きた標本がオランダに届けられている。これにたいして、最初の生きたオランウータンがヨーロッパにきたのは、一七七六年のことである。ゴリラにいたっては、一九世紀半ばになるまで、はつきりしたことはわかっていなかった。

ホッホアーデルによれば、ヨーロッパにきた類人猿のほとんどは、まだ幼かった。hセリイは捕獲のさいに殺されたからである。しかも、そうしてとらえた若い個体は、数か月、長くても一年で死んでしまった。なおオランウータンは、子どものときはひとと人間でつくりなで、観察者にダーウィンの説の確かさを植えつけるのに「ケ」役立ったという。チンパンジーのセリイが最初にヨーロッパにきたのは、一八九三年のことであった。

「進化論」にたいする興味と、高い死亡率がくる珍しいさあいまって、いったん類人猿が展示されると、それこそ何万という客が動物園を訪れた。たとえば、一八七八年に、シェンブルンでオランウータンが公開されたとき、最初の日曜日で四万から五万の入場者数を記録したという。

しかし、「ヒトはサルから進化した」という考えが一般化されるにつれ、類人猿を見るだけでは飽きたらず、「新しい欲求が生まれても不思議ではない。すなわち、人間と類人猿のあいだをつなく、いわゆる「ミッシング・リンク」を見たという欲求である。

一八八三年、カナダのある「コウギョウ師は、今日のラオスからやってきた多毛毛の七歳の少女を、ひととサルのあいだの「ミッシング・リンク」だといってロンドンで展示した。彼女は、一八八四年にはフランクフルトとドレスデンの動物園において見世物となっている。当時の動物園においては、見世物でセリイを立っていた巡回メナジエリーの伝統が、なおも息づいて

ていたのである。

こうした「サ不気味な流れ」の先に位置するのが、動物園における「民族展」――珍しい民族や「野蛮な」民族の展示――である。「珍しいものとして演出された人びとが、ライオンやサルと隣りあつて展示される。そこで重要となるのは、人種主義的な物語、すなわち――」この動物学や人類学が、論証的に裏打ちするかなどで――アフリカやアジアの人びとが、動物に近しいと暗示する物語である」(ホフホーデル)。

(溝井裕一「動物園の文化史 ひとと動物の500年」による)

問十二 二重傍線部f、jのカタカナを漢字になおすところとなるが、もともとも適当なものを次の中からそれぞれ一つ選べ。

- | | | | | | | | | | | | |
|---|-------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| f | ハセイ | ① | 把 | ② | 派 | ③ | 波 | ④ | 破 | ⑤ | 覇 |
| g | テンケイ | ① | 型 | ② | 計 | ③ | 系 | ④ | 敬 | ⑤ | 径 |
| h | セイタイ | ① | 聖 | ② | 整 | ③ | 生 | ④ | 正 | ⑤ | 成 |
| i | コウギョウ | ① | 鉦 | ② | 工 | ③ | 興 | ④ | 公 | ⑤ | 口 |
| j | セイケイ | ① | 系 | ② | 形 | ③ | 計 | ④ | 型 | ⑤ | 経 |

— 15 —

17(2.6J)

問十四 波線部えゝかの意味としてもとも適当なものを、次の中からそれぞれ一つ選べ。

- | | | | | | |
|---|------|---|-----------------------------|---|-----------------------------|
| え | メディア | ① | 意思疎通のための交流と共感 | ② | 相互理解のための対話や表現 |
| | | ③ | 広報宣伝のための技量や技術 | ④ | 情報伝達のための媒体や手段 |
| お | 風刺 | ① | 間違いを直接指摘して改善を要求したり促進したりすること | ② | 起こりうる悪い事態を予測し非難すること |
| | | ③ | 社会や人物を遠回しな表現や嘲笑的な表現で批評すること | ④ | 弱みにつけ込み不当な利益を要求したり獲得したりすること |

18(2.6J)

か はばかな(い)

- | | | | |
|---|----------------------|---|-------------|
| ① | 謙遜せずにはげような様子 | ② | 自信なく萎縮した様子 |
| ③ | 根も葉もないうわさを誇張して喧伝すること | ④ | 気兼ねしつつ慎重な様子 |
| ⑤ | ためらって決められない様子 | | |
| ⑥ | 周りを気にせず遠慮しない様子 | | |

30

— 16 —

問十五 傍線部力「革命的、いや破壊的であった」と筆者が述べることにあてはまらないものを次の中から一つ選べ。

- | | |
|---|-------------------------------------|
| ① | その説の背後に無神論や唯物論が透けてみえていたこと |
| ② | 神が個々の種を創造し、それら是不変であるとする思想を否定したこと |
| ③ | 動物の変異において、神の意志などかわつていないとほめかけたこと |
| ④ | 環境が生きものの欲求を刺激することで生じる変化は適応することとしたこと |
| ⑤ | ひとと動物の境目を完全にとつばらつてしまったこと |

31

— 18 —

20(2.6J)

問十六 空欄 E に入るもともとも適当なものを、次の中から一つ選べ。

- | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | 濃 | ② | 漠 | ③ | 閑 | ④ | 然 | ⑤ | 寂 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

32

問十七 傍線部キ「妖怪になった」とあるが、どのような意味で「妖怪」だということか。もともとも適当なものを次の中から一つ選べ。

- | | |
|---|--------------------------------------|
| ① | ひとつのカテゴリにおさまらず、不安と魅力の両方を感ぜさせるという意味 |
| ② | 「境界性」が悪魔や鬼のイメージと結びつき、畏怖の対象に変化したという意味 |
| ③ | 異世界の住人である悪魔や鬼と同一のカテゴリに属しているという意味 |
| ④ | 鬼や悪魔と同じ驚異的な身体能力を持っているという意味 |
| ⑤ | 「境界性」を持つ邪悪な者として社会から排除されたという意味 |

33

問十八 空欄 F、H に入る語句としてもともとも適当なものを、次の中からそれぞれ一つ選べ。ただし、同じものを二度用いることはできない。

- | | | | | | | | | | | | |
|---|------|---|------|---|------|---|-------|---|------|---|------|
| ① | とはいえ | ② | これまた | ③ | さておき | ④ | したがって | ⑤ | なぜなら | ⑥ | そうした |
|---|------|---|------|---|------|---|-------|---|------|---|------|

F 34 G 35 H 36

— 17 —

問十九 傍線部ク「これにたいして」とあるが、何と何を対比しているのか。もともとも適当なものを次の中から一つ選べ。

- | | | | | | |
|---|------------|---|------------|---|----------------|
| ① | オランダとヨーロッパ | ② | 人気と需要 | ③ | チンパンジーとオランウータン |
| ④ | サルと類人猿 | ⑤ | チンパンジーとゴリラ | | |

37

問二十 傍線部ケ「役立った」とあるが、その理由としてもともとも適当なものを次の中から一つ選べ。

- | | |
|---|--|
| ① | 若い個体のはかない一生が、種の進化の過程における淘汰の現実を想起させたから |
| ② | オランウータンの子どものかわいい姿が、自然淘汰における生き残りには利点であると解釈されたから |
| ③ | 人間に似たオランウータンの子どもの姿が、「進化論」から導かれる人間と類人猿の近さを実感させたから |
| ④ | ダーウィンによる若いオランウータンの観察記録が、「進化論」の具体的な証拠として受け入れられたから |
| ⑤ | 若い個体のみの展示であることが、「進化論」における生存競争の厳しさをよく伝えたから |

38

問二十一 傍線部コ「新しい欲求が生まれ」た経緯の説明としてもともとも適当なものを、次の中から一つ選べ。

- | | |
|---|---|
| ① | 珍しいものを見たいという大衆の飽くなき探求心が、通常の類人猿展示では満たされなくなった |
| ② | 類人猿の飼育が難しく、新たな展示対象として「ミッシング・リンク」への関心が高まった |
| ③ | 科学技術の発展により、「ミッシング・リンク」の存在が確実視されるようになった |
| ④ | 「進化論」を疑問視する意見が高まり、人間と類人猿の明確な境界を示す証拠が求められた |
| ⑤ | 「進化論」が一般に受け入れられるにつれて、ヒトとサルの間を埋める存在への関心が高まった |

39

— 18 —

20(2.6J)

19(2.6J)

問十二 傍線部サ「不気味な流れ」とあるが、筆者は何を「不気味」だと言っているのか。その説明としてもっとも適当なものを、次の中から一つ選べ。

- ① 見世物とされる人びとの安全や権利が全く考慮されず、劣悪な環境下で強制的に展示され、危険な状況に置かれていた可能性が高いという、人道上の問題が無視されていること
- ② 人びとの信仰にも似た「進化論」への尊敬・崇拝が、次第に猟奇的な趣味や人間の尊厳を踏みしめるような見世物への嗜好へと至んていった様子が伺えること
- ③ 動物園が、本来持つべき研究・教育機関としての役割を放棄し、単なる娯楽施設、あるいは見世物小屋のような低俗な場所へと変質してしまった感があること
- ④ 珍しい存在を見世物として扱うことがエスカレートし、ついには人間を動物と同列に見せ物にし、人種差別的な物語と結びつく可能性が見てとれること
- ⑤ 人間と動物を区別なく扱うことで人間の尊厳が損なわれ、同様のことが社会全体に広がることで、倫理的な混乱や価値観の崩壊を招く恐れがあったこと

問二十三 甲乙の内容に合致するものを次の中から二つ選べ。なお、解答の順は問わない。

- ① オオカミの生きている地域では、足の遅い生きものはすべて淘汰された
- ② 「進化論」は、生きものの形質が遺伝するというマルクが提唱した考え方をそのまま受け継いだものである
- ③ ヘッケルは、ヨーロッパ人以外の「野蛮な」民族と類人猿は区別がつかないほど近い存在であると主張した
- ④ 「自然淘汰」を繰り返すことで、ブルドッグやスパニエルのような、同じイヌとは思えない生きものが誕生した
- ⑤ 人びとが動物園でサルを見て笑った背後には、人間と動物の境界が揺らぐことへの不安や恐怖があった
- ⑥ オランウータンは、一八世紀末頃にはヨーロッパの動物園で多数飼育されていた
- ⑦ 種の起源の中で、ダーウィンはひとがサルから進化した過程について詳細に論じている
- ⑧ 動物園は、人びとが類人猿などを観察することで「進化論」を確認する「メディア」としての役割を果たした

入試	日程	科目	大問	執筆者名	書名	発行所	クレジット
公募	11/19	国語		佐倉 統	科学とはなにか 新しい科学論、いま必要な三つの視点	講談社	
公募	11/20	国語		小堀 謙一郎	死を生ける 訪問診療医がみた709人の生老病死	朝日新聞出版	
公募	12/13	国語	甲乙	立川 昭二	病気の社会史	岩波書店	
一般	前期 1/26	国語	甲乙丙	廣野 由美子	シンデレラはどこへ行ったのか 少女小説と『ジェイン・エア』	岩波書店	
一般	前期 1/26	日本史	I-D	一瀬上人	『新撰日本史』所収 一遍上人 聖絵「福圓の市」	浜島書店	清浄光寺(遊行寺)蔵
一般	前期 1/26	日本史	I-F ①	葛飾 北斎	『浮城二十七年書』山下白画	山川出版社	山口県立美術館・浦上記念館 所蔵
一般	前期 1/26	日本史	I-F ②	歌川 広重	『詳説日本史』所収 「名所江戸百景 亀戸屋敷」	山川出版社	出典: ColBase (https://colbase.nioh.go.jp/)
一般	前期 1/26	日本史	I-F ③	歌川 国芳	『詳説日本史』所収 「船中若小入 巻五」	山川出版社	たばこと塩の博物館所蔵
一般	前期 1/26	日本史	I-F ④	菱川 師宣	『詳説日本史』所収 「見渡り美人図」	山川出版社	出典: ColBase (https://colbase.nioh.go.jp/)
一般	前期 1/26	世界史	I	古田 元夫	世界史リブレット42 アジアのナショナリズム	山川出版社	
一般	前期 1/26	政治 経済	Ⅲ	青木 真兵	『西洋史の扉をひらく』(上)田耕造・入江幸二・比佐篤 編 著	晃洋書房	
一般	前期 1/27	国語	甲乙	今井 むつみ	学力喪失 認知科学による回復への道筋	岩波書店	
一般	前期 1/27	日本史	I-L	渡辺 崋山	『詳説日本史』所収 「産皇石像」	山川出版社	出典: ColBase (https://colbase.nioh.go.jp/)
一般	前期 1/27	世界史	I	木谷 勤	世界史リブレット40 帝国主義と世界の一体化	山川出版社	
一般	前期 1/27	政治 経済	I-問5		朝日新聞 2025年5月3日 (天声人語)「個人」の重さ	朝日新聞社	朝日新聞 2025年5月3日 天声人語「個人」の重さ 朝日新聞社に無断で転載することを禁じる。 承諾番号:28-0898
一般	前期 1/27	政治 経済	Ⅲ		日本経済新聞 2025年1月6日 社説 多様な生き方へ社会の襟を広げよ	日本経済新聞社	日本経済新聞 2025年1月6日 社説 多様な生き方へ社会の襟を広げよ 利用許諾番号:No.002374
一般	前期 1/28	国語	甲乙丙	松永 伸司	雑誌「広告」Vol.417所収 「まじめな遊び、ふざけた遊び」	博報堂	
一般	前期 2/5	国語	甲乙	イェンヌ・ダムベリノ著 久山葉子ノ訳	脂肪と人類 渴望と嫌悪の歴史	新潮社	Fett : En historia om smak, skräk och starka begär by Jenny Damberg. © Jenny Damberg 2019. Reproduced with permission of Ordfront förlag.
一般	前期 2/5	日本史	I-C		『詳説日本史図録』所収 本朝(皇朝)十二銭	山川出版社	日本銀行金融研究所貨幣博物館
一般	前期 2/5	日本史	I-C		『詳説日本史』所収 寛永銭	山川出版社	出典: ColBase (https://colbase.nioh.go.jp/)
一般	前期 2/5	日本史	I-F		『詳説日本史』所収 「南蛮屏風」	山川出版社	「南蛮屏風」神戸市立博物館所蔵 o神戸市立博物館イメージ・ガイド/DNPart.com 許可なく複製することを禁止する。
一般	前期 2/5	世界史	I	山本 文彦	神聖ローマ帝国 「強国なる大國」の牽役	中央公論新社	
一般	前期 2/5	世界史	Ⅱ	三浦 徹	アジア人物史 第7巻近世の帝国の繁栄とヨーロッパ 巻頭言	集英社	
一般	前期 2/5	政治 経済	I		日本経済新聞 2025年1月1日 社説 変革に挑み次世代に希望をつなごう	日本経済新聞社	日本経済新聞 2025年1月1日 社説 変革に挑み次世代に希望をつなごう 利用許諾番号:No.002374
一般	前期 2/5	政治 経済	Ⅲ	平野 克己	経済大陸アフリカ 資源・食糧問題から開発政策まで	中央公論新社	
一般	前期 2/6	国語	甲乙	溝井 裕一	動物園の文化史 ひとと動物の5000年	勉誠社	
一般	後期 3/3	国語	甲乙	山根 壽一	共感革命 社交する人類の進化と未来	河出書房新社	
公募	11/19	英語	I	Élia Borrás	The Guardian Thu 6 Feb 2025 "We water, rest, water": the green belt of vegetable plots cooling a city	Guardian News & Media	Copyright Guardian News & Media Ltd 2026
公募	11/20	英語	I	Albert Stumm	VOA Learning English November 26, 2024 Group Helos People Exercise Outdoors	VOA News →Associated Press	
公募	12/13	英語	I	JoNel Aleccia	VOA Learning English December 23, 2024 New US Food Guidelines: Eat Less Meat, More Beans	VOA News →Associated Press	
一般	前期 1/26	英語	II	CHIKA YAMAMOTO	The Asahi Shimbun December 11, 2024 Japan again ranks at or near top of survey on adult skills	朝日新聞社	The Asahi Shimbun December 11, 2024 Japan again ranks at or near top of survey on adult skills 朝日新聞社に無断で転載することを禁じる。 承諾番号:28-0898
一般	前期 1/27	英語	II	Ayuko Kato	The Japan Times Oct 19, 2024 Supporting women's participation in economics and	The Japan Times	The Japan Times, Oct 19, 2024
一般	前期 1/28	英語	I	GAVIN BLAIR	The new Japan Times: reborn at 120	Foreign Correspondents' Club of Japan	The new Japan Times: reborn at 120 by Gavin Blair. Reproduced with permission of the author.
一般	前期 1/28	英語	II	Alexa St. John Jennifer McDermott	VOA Learning English October 22, 2024 Big Tech Companies Aim to Develop Small Nuclear Reactors	VOA News →Associated Press	
一般	前期 2/5	英語	I	IEEE Computer Society	University World News 15 November 2024 How research can support cyber and data security and privacy	University World News	How research can support cyber and data security and data security and privacy by IEEE Computer Society from University world news, Nov 15, 2024.
一般	前期 2/6	英語	I	Angela Symons	Euronews 20/03/2024 Only seven countries in the world breathe safe air. Three of them are in Europe	Euronews	Only seven countries in the world breathe safe air. Three of them are in Europe by Angela Symons from Euronews, Mar 20, 2024. Reproduced with permission of Euronews.
一般	前期 2/6	英語	II	Vincent Moleveld	Online Gallery 30 September - 2024 The Nintendo Uji Ogura Plant: From Factory to Museum of Nostalgia	Online Gallery	The Nintendo Uji Ogura Plant: From Factory to Museum of Nostalgia by Vincent Moleveld, Online Gallery, Sep 30, 2024. Reproduced with permission of the author.
一般	後期 3/3	英語	I	El Hunt	The Guardian Thu 6 Feb 2025 The long black: will this soon be the UK's favourite coffee order?	Guardian News & Media	Copyright Guardian News & Media Ltd 2026
一般	後期 3/3	英語	II	Didi Tang	The Asahi Shimbun March 12, 2025 China's shipbuilding dominance poses economic and national security risks for the U.S., a report says	朝日新聞社 →Associated Press	
一般	最終日程 英・国総合型	英語	I	Ayaka Kaji Kensuke Fukushima	The Japan News December 4, 2025 World's Top Fashion Brands Make Strides in Sustainability; Paris Fashion Week Provides Competition for Eco-Fashion	読売新聞社	2025年12月4日 The Japan Newsより改変